

障害者の就労支援のエキスパート

沖縄障害者職業センターニュース

【第4回】関係機関への助言・援助業務について

これまでの「沖縄障害者職業センターニュース」では、事業主支援、ジョブコーチ支援、事業主支援ワークショップについてお伝えしました。この他にも、障害者職業センターでは、障害者の就労支援を行っている機関に対して、様々な形式で支援ノウハウをお伝えしています。今回は、「関係機関への助言・援助業務」について、ご紹介します。

就労支援に関する知識を学びたい方への研修

<就業支援基礎研修>

障害者の就業支援を担当して、**経験が浅い方**を対象に就業支援に必要な**基本的な知識・技術を習得**していただくための3日間の研修です。例年、1年に2回実施しています。

【研修内容】①就業支援のプロセスⅠ・Ⅱ（インテークから定着支援まで） ②障害者雇用の現状と障害者雇用施策 ③障害特性と職業的課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（身体障害・高次脳機能障害・精神障害・知的障害・発達障害） ④就労支援機関の役割と連携 ⑤労働関係法規の基礎知識 ⑥企業における障害者雇用の実際 ⑦ケーススタディ・意見交換

【受講者の声】

「就労支援をするうえで**大事なこと、知っていなければいけないこと**を丁寧に教えていただいてとても勉強になった。」

「**ケーススタディは少人数**だったのでじっくり話し合いができて良かった。他の受講者も現場で同じような悩みを抱えていることを知れて、ホッとした。同時に、参考になる提案もあり、良い機会になった。」



<就業支援実践研修>

障害者の就業支援を担当している方（**2年以上の実務経験**）を対象に障害別（精神障害、発達障害、高次機能障害）の就業支援に関する**実践力を習得**する研修です。平成28年度は、「精神障害コース」を実施しました。

【研修内容】 ①「企業へのアプローチ」 ②「就業支援の実際」 ③「ケーススタディ」

【受講者の声】

「講義のみではなく、グループワークの時間が多くあり、有意義な時間でした。日頃の支援で必要な**ネットワーク作り**にもなった。」

「企業との信頼関係をどのように構築するか等、**企業の視点も学ぶことができた。**」



その他、個別のニーズ（「**〇〇さんの対応に困っている**」「**〇〇障害の方の支援方法について知りたい**」）に応じて、「**技術的助言**」「**協同支援**」「**実習**」といった形で、就労支援に関する知識や支援ノウハウを提供しています。詳しくは次ページをご覧ください。

今年度実施した関係機関への助言・援助業務の具体例をご紹介します

平成28年度に沖縄障害者職業センターが地域の就労支援機関向けに実施した内容をいくつか紹介します。個別のニーズに合わせて様々な形で支援を行っていますので、**同じように悩んでいることがあれば、お気軽にお問い合わせください。**

【技術的助言】

・就業支援に関わる技術や知識について、お問い合わせいただければ、電話や来所、訪問などの方法で助言を行います。

●知的障害者のコミュニケーション面の支援について相談したい。

●「作業を通じてアセスメントをする際のポイントを知りたい」とセンターへ電話でお問い合わせ。

★支援機関を訪問、電話、来所していただく等の方法で具体的な助言を実施。

【協同支援】

・関係機関で支援している〇〇さんの支援方法（職場定着やアセスメント）について困っていたり、助言がほしい場合に、本人の同意を得たうえで、職業センターも共に支援を行い、その支援方法の解説を行います。

●精神障害者の〇〇さんの職業相談・職業評価の方法について知りたい。

●知的障害のある〇〇さんの職種選択に活かすために職業評価を実施したい。

★対象者と支援者で職業センターに来ていただき、MSFASを活用した相談の実施方法や、模擬的就労場面での観察と振り返り方法について解説を交えながら実施。

★対象者と支援者で職業センターに何度か来ていただき、作業の体験と振り返りを実施。支援者に対しては、実施方法の解説を実施。

【実習】

・職業センターの支援場面を活用した見学や体験、支援技法の演習などを実施します。

●発達障害者の支援に関して、「ナビゲーションブック」の作成方法を知りたい。職員研修を実施して欲しい。

●精神障害者の職場定着に向けた支援について知りたい。

★職業センターにて、事業所の職員を対象にした4時間の実習を実施。講義形式で概要を伝え、演習で事例をもとに「ナビゲーションブック」を作成、グループディスカッションなども実施。

★精神障害者の職場定着に有効とされている講座（「アサーション講座」「ストレスマネジメント講座」）を見学していただくとともに、解説を実施。

【受講者の声】

「ナビゲーションブックの作成方法、企業にどのように伝えるかが良く分かった。」

「自己理解や、強みと弱みを知るツールになると感じた。様々な資料ももらったので、支援に活かしたい。」

